

平成23年度社会貢献プロジェクト

課題名：乳幼児支援事業

～超早期に聴覚障害診断を受けた乳幼児への保育支援～

視覚に障害のある乳幼児の早期段階における支援事業としての育児学級ミニ講座の整備・拡充～

宮本 信也(附属聴覚特別支援学校 校長)

星 祐子(附属視覚特別支援学校 副校長)

1. 事業の概要

視覚や聴覚等に障害のある0歳児から2歳児までの乳幼児とその家族・関係機関等への支援事業の展開

○週1回の定期的な育児学級

グループ活動、見えや聞こえについての相談・支援、育児に関する相談

○ミニ講座の開設

テーマを設定して講座を開設

子育て、障害理解・支援等に関する情報発信

○聴覚障害早期教育公開研修会の開催

○地域の保育園等への訪問相談の実施



2. 事業成果の概要

○育児学級

0歳・1歳児グループ 29回実施 のべ329名参加

2歳児グループ 29回実施 のべ149名参加

○ミニ講座

9回実施 のべ311名参加

参加者：保護者、保育士、保健師、乳幼児施設職員 その他

テーマ：「からだを動かして遊ぼう」「視覚に障害のあるお子さんの子育て

について」「手や指を使ってたくさん遊ぼう」「たのしいふれあい遊び」

「先輩お母さんのお話を聴こう」など

○聴覚障害早期教育公開研修会

平成24年2月24日(金)実施 30名参加

参加者：保育士、保健師、幼稚園教諭、言語聴覚士、看護師、助産師など早期発見から療育に関係する専門職の方々

育児学級(0歳児クラス)の様子



育児学級(2歳児クラス)の様子

3. 地方自治体等との連携

ミニ講座や聴覚障害早期教育公開研修会などにおいては、地域の保育士、保健師、看護師、乳幼児施設職員など乳幼児期から療育・支援に関係する専門職の方々に参加いただき、好評を得ている。また、ミニ講座の内容に応じて、こどもの城、日本玩具協会等の団体の協力を得て、実施している。

他にも、地域の保育園、保健所等から訪問相談の依頼なども増え、地方自治体等との連携協力を図ってきている。



育児学級での情報交換の様子



4. 今後の展望

子育て支援については社会の中で取り組んでいくべき内容であるが、特に障害のあるお子さんとその保護者・関係者への支援は超早期段階から求められていることを実感している。長年にわたる視覚と聴覚の乳幼児期からの支援実績をもとに、今後も多様な社会的ニーズに応えていきたい。

ミニ講座「手や指を使ってたくさん遊ぼう」の様子

*本事業は、附属視覚特別支援学校と附属聴覚特別支援学校の連携協力をすすめながら展開した。